

佐貫頭首工

— 栃木県塩谷町 —

東京大学大学院農学生命科学研究科 木村 匡 臣

1. 鬼怒川における昭和期の農業水利の再編^{1),2)}

鬼怒川の地形は、栃木県塩谷町佐貫にて大谷川を合流するまでは兩岸高く峡谷をなし、合流点より下流では山地から平野部へ移り扇状地を形成する。川幅が広く土砂の流送も激しいため、締切り堰を設けることは難しく、蛇籠を用いた簡易な堰で取水し河原の砂利を掘りあげた素掘りの水路により導水して用水としていた。そのため、洪水のたびにこれらの施設は流失し、河床の変動により取水が困難となるので堰を付け替える必要がなければならず、付近の農民は洪水と渇水の両方による被害に悩まされ続けていた。

戦後になり、それまで中断していた鬼怒川河水統制事業が再開し、全国の多目的ダムの先駆けとなる五十里ダム（写真-1）が昭和31年に完成した。つづけて昭和41年に完成する川俣ダム、さらには川治ダム（昭和58年竣工）といった多目的ダム群が鬼怒川上流域に計画されるに従い、治水の向上と農業用水の安定確保の目途が立ち、鬼怒川における水利施設の抜本的な改修が可能となった。代表的な国営事業には、後述する鬼怒川中部農業水利事業（昭和32年着工、41年完了）のほかに、鬼怒川下流部の勝瓜用水や大井口用水など7用水を勝瓜頭首工に合口する鬼怒川南部農業水利事業（昭和40年着工、50年完了）、鬼怒川中流部に位置する石神井用水、板戸用水など8用水を岡本頭首工により合口取水する鬼怒中央農業水利事業（昭和53年着工、平成8年完了）などがある（図-1）。

本誌表紙写真の佐貫頭首工は、国営鬼怒川中部農業水利事業と栃木県営風見発電事業の共同施設として昭和

39年に完成した頭首工である。

2. 佐貫頭首工の概要^{1),3)}

国営鬼怒川中部農業水利事業（図-2）の対象地区は鬼怒川流域の中部に展開する水田地帯で、佐貫頭首工が建設される以前は川岸に杭や蛇籠などで造られた9カ所の取水堰（左岸5用水：市の堀、草川、釜ヶ淵、大宮、赤沼、右岸4用水：逆木、根川、高間木、東芦沼）があった。これらの用水の安定取水が困難になったことによる合口化に加えて、栃木県電氣局（現企業局）による発電事業との共同施設とする形で、頭首工から市の堀逆木分水工までの工事費の一部負担が成立



図-1 鬼怒川における国営農業水利事業²⁾



写真-1 五十里ダム

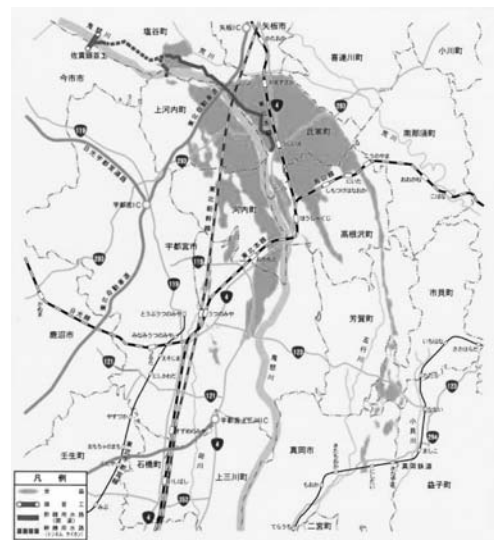


図-2 鬼怒川中部農業水利事業概要図²⁾

した。

堰の構造は、左岸より階段式魚道、土砂吐（ローラゲート：2門）、洪水吐（ローラゲート：1門、転倒ゲート：2門）、固定堰（重力式コンクリート堰）となっている（写真-2）。上流左岸側に取水水門（スライドゲート：6門）が設置されており、最大取水量は42 m³/sである。取水された水は鬼怒川の左岸に沿って導水路を流れ、まず塩谷町風見山田にある風見発電所へ運ばれ、約30mの落差を利用した発電に使用される。発電に使用された水は、その後分水路により市の堀幹線、逆木幹線へ分水され、逆木用水はサイホンにより右岸へ渡り、それぞれ鬼怒川左岸、右岸の合計約8,900 haの農地への灌漑用水として利用されている。

3. 逆木用水の歴史

合口された用水の中でも、特に逆木用水は度重なる洪水の影響により、昭和22、23、24年と3年連続して取水施設を流失するという大被害を受けている。このため、取水堰建設の国営事業化を大きく先導したといえる。逆木用水の成り立ちは、1620年に城主本多正純が西鬼怒川を利用して用水路を掘削したことに始まるとされる。1754年に「逆木用水組合」が設立され、川除工事など出水による災害防止に努めていたが、はじめ用水路であった西鬼怒川は次第に大きくなってたびたび氾濫するようになった。1896年の大洪水を機に、鬼怒川本流から2孔の隧道により分水して安定した取水を行うための「逆木洞門」がつけられた。風見発電所が新設された後は、その放水をサイホンで鬼怒川を横断させて取水するようになり、1967年に逆木洞門は閉鎖された。サイホンの吐口の位置する上河内緑水公園では、上流に逆木洞門跡（写真-3）を見ることができる。

4. 佐貫石仏（佐貫観音）

頭首工付近の左岸には、高さ64mの石英粗面岩の鬼怒川に面した崖壁に線刻された大日如来坐像（佐貫石仏）（写真-4）があり、大正15年に国の史跡に指定されている。風化が進んでおり石仏の全体像を拝むことは困難になっているが、像高は約18.2mの巨像であり、顔面の長さは約3m、幅約1.64mほどの大きさである⁴⁾。昔から人々に親しまれてきた佐貫石仏は「弘法大師一夜の作」との伝承もあるが、彫刻年代は平安時代初期説と平安末期～鎌倉時代初期説があり、後者が有力となっている⁵⁾。最近では、岩の上部にある「奥の院大悲窟」が2015年3月に136年ぶりに開帳されたことで注目を集めた。

引用・参考文献

1) 農林水産省関東農政局利根川水系農業水利調査事務所：利



写真-2 佐貫頭首工（上流左岸より望む）



写真-3 逆木洞門跡

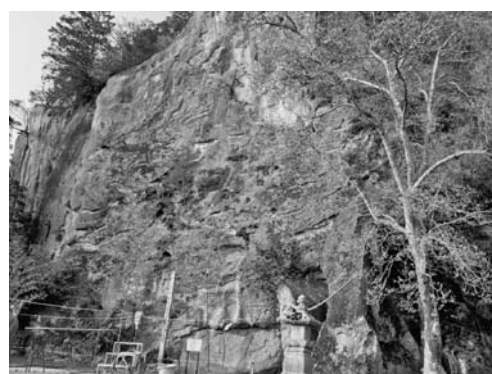


写真-4 佐貫石仏

- 根川水系農業水利誌，農業土木学会，pp.751～763（1987）
- 2) 関東農政局：利根川水系土地改良調査管理事務所鬼怒川南部支所，<http://www.maff.go.jp/kanto/nouson/sekkei/kokuei/kinugawa/index.html>（参照2017年2月15日）
 - 3) 関東農政局：鬼怒川中部用水，http://www.maff.go.jp/kanto/nouson/sekkei/kokuei/toncho/rekishi/02_2.html（参照2017年2月15日）
 - 4) 栃木県塩谷町：佐貫観音，http://www.town.shioya.tochigi.jp/forms/info/info.aspx?info_id=8951（参照2017年2月15日）
 - 5) 農業農村整備情報総合センター：鬼怒川中部農業水利事業（水土の礎），http://suido-ishizue.jp/kokuei/kanto/F1/F2/Tochigi_Kinugawa.html（参照2017年2月15日）